

# 平成 23 年度胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）の状況について

平成 24 年 7 月  
北海道胆振総合振興局

## 1 概要

胆振管内の平成 23 年度（平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月）における訪日外国人宿泊者数（延べ数）は 289,776 人 で、前年度（433,717 人）と比べて 143,941 人の減少（前年度比 66.8%）となり、訪日外国人宿泊者数（延べ数）の統計を取り始めた平成 9 年度以降、宿泊者数はおおむね順調に増加してきましたが、2 年ぶりに減少に転じ、過去最大の減少幅となりました。

平成 23 年度 上期（4 月～9 月） においては、東日本大震災及び原発事故の影響に加え、中国・韓国発着の航空路線の運休や、記録的な円高の影響等により、宿泊者数は 104,264 人 と、前年度同期（231,128 人）と比べて 126,864 人の減少（前年度同期比 45.1%）と、半分以下に大きく落ち込みました。

一方、下期（10 月～3 月） においては、依然として東日本大震災及び原発事故の影響が残っていることに加え、7 月から続く記録的な円高により、宿泊者数は 185,512 人 と、前年度同期（202,589 人）と比べて 17,077 人の減少（前年度同期比 91.6%）となりました。

なお、宿泊者数が 1 月に増加している理由、及び 2 月に大幅に減少している理由としては、アジア地域の旧正月である「春節」が 1 月にずれたことが大きな要因として考えられます。（平成 22 年度の春節は 2 月 3 日、23 年度は 1 月 23 日）

## 2 圏域・国別の状況

胆振管内における訪日外国人宿泊者数（延べ数）を国・地域別に見ると、台湾が 125,553 人で最も多く、次いで韓国（53,809 人）、中国（43,892 人）、香港（34,397 人）、シンガポール（15,142 人）となっています。

このように、上位 5 か国はすべてアジア圏の国で占められており、胆振管内に宿泊した外国人の 96% 以上（279,725 人）が、上位 5 か国にマレーシア、タイ、インドを加えたアジア圏からの旅行者となっています。

台湾からの来訪者は、台湾が他国に先駆けて日本への渡航に関する制限を緩和したり、王金平立法院長を中心とした観光団の北海道来訪が 5 月に行われるなど、東日本大震災や原発事故の影響が早い段階から解消されてきたことから、特に下期は前年度同期を上回るペースで増え、最終的にはほぼ前年度並みとなりました。

また、中国については、11 月以降来訪者が前年度を上回るペースとなりましたが、上期の激減をカバーするには至らず、前年度と比べて 32.6%の減少となりました。

一方、韓国については、3 月を除いて来訪者が前年度の半分程度の状況が続いたことから、前年度と比べて 57.9%の減少となりました。

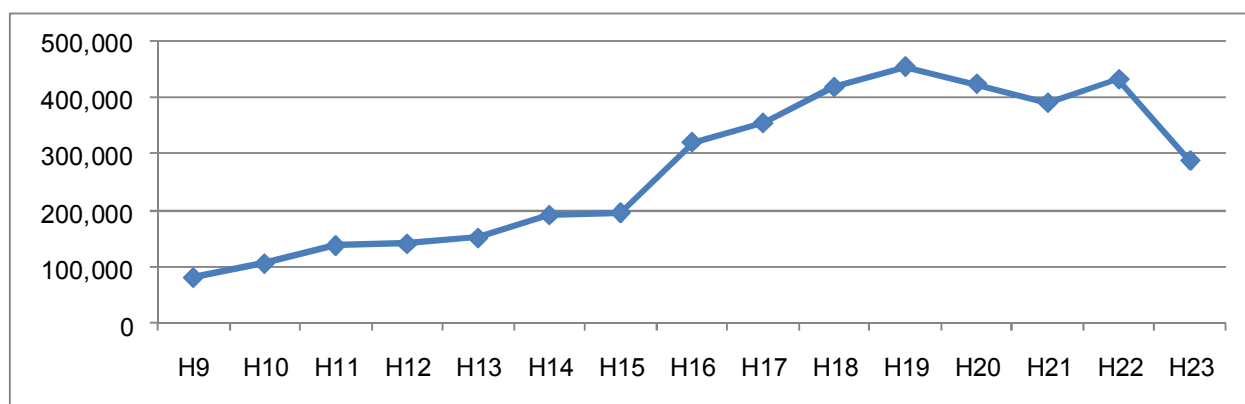
【参考 1】胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）内訳

（単位：人、％）

順位	国名	平成23年度宿泊者数（延べ数）		対前年度比	前年度からの増減数
			構成比		
1	台湾	125,553	43.3	99.4	▲ 739
2	韓国	53,809	18.6	42.1	▲ 73,951
3	中国	43,892	15.1	67.4	▲ 21,234
4	香港	34,397	11.9	66.7	▲ 17,209
5	シンガポール	15,142	5.2	48.5	▲ 16,065
その他		16,983	5.9	53.5	▲ 14,743
合計		289,776	100.0	66.8	▲ 143,941

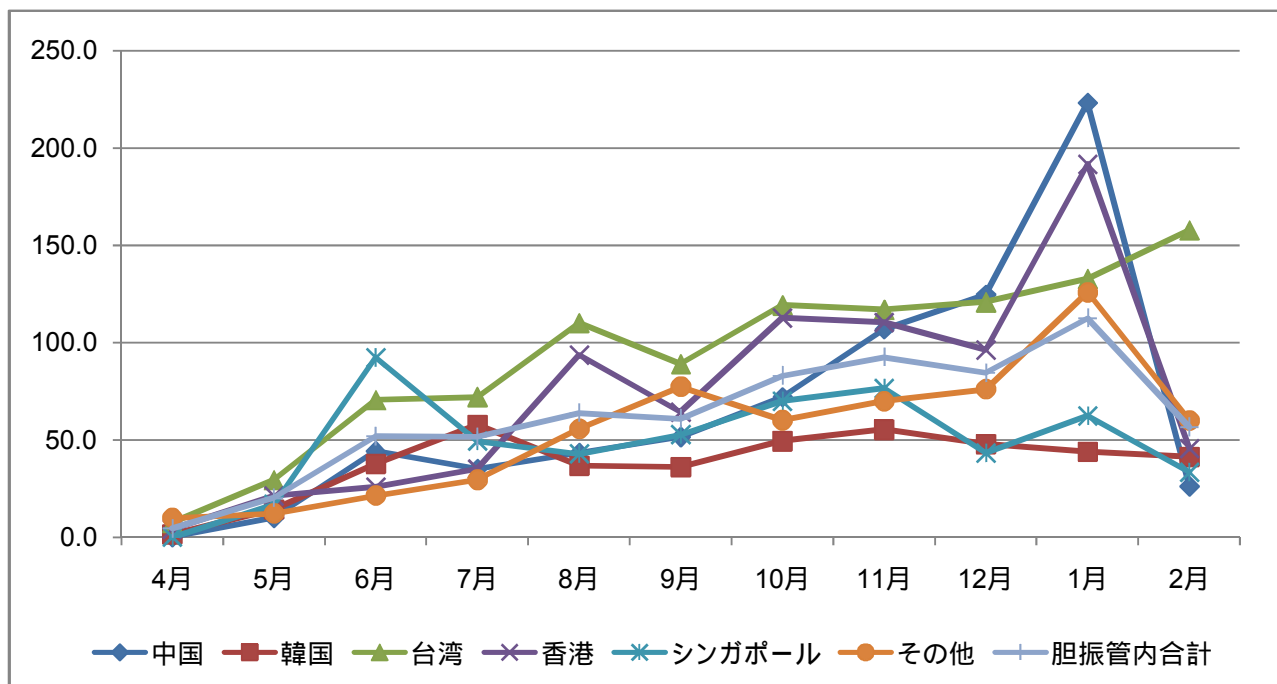
【参考 2】胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）の推移（H9～）

（単位：人）



【参考 3】胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）前年度同月比の推移

（単位：％）



※3月は、前年度に東日本大震災が発生し、単純比較ができないため、掲載していない。

以上